

NO 9 自然と歴史を肌で感じて暮らせるまちづくり

都市化の進展の過程において、川崎市の自然域は減少し、かつては普通に見られた生き物が姿を消しています。多摩川はグラウンドなどによって流れる場所を狭められ、本来持っていた水を浄化する能力を弱められ、鮎等の産卵場所であった湧水ワンドは消え、氾濫することを忘れた河原からはカワラケツメイが消え、ツマグロキチョウも消えていきました。また、多摩丘陵は、雑木林を宅地に変え、湧水は下水路に流し、棲息していた多くの生き物の住処を奪ってきました。辛うじて残った雑木林も、更なる宅地化の波に破壊されようとしています。

魅力的な居住環境というのは都市的利便性、安全性、快適性などだけではなく、自然への近接性も求められるものと思います。都市化が進めば進むほど、自然によって、生き物との出会いによって、心が癒される様に思えます。

川崎は<心豊かに暮らせる都市>であって欲しいと思います。そのための要素の一つが<自然と歴史を肌で感じて暮らせる>ということだと思います。「自然や歴史文化を大切にすることが、川崎にある」ということは市民として世界に誇っていいことだと思います。

そこで、<自然と歴史を肌で感じて暮らせるまちづくり>をテーマとする施策を提案したいと思います。ここで大事なことは、市民が調査し、計画し、保全することであり、これを行政が適切に支援することだと思います。

課 題	目 標	施 策	実 行 手 順
<p>川崎市緑の基本計画にはピオトープネットワークの重要性が記されているが、その形成を図るための措置は講じられていないと思われる。また、総合計画にはピオトープという発想すら欠如している。かつて身近に普通にいた生き物がいなくなってきたということは、居住環境としても魅力を失うことである。</p>	<p>かつて普通に見られた生物、採集できた生物に普通に会える自然が身近にある環境をつくる。</p> <p>そのためには、生物保護区とピオトープネットワークの形成を図る。</p>	<p>樹林地等のピオトープネットワークづくり 多摩丘陵の樹林地等川崎市域の植生、昆虫、野鳥などの棲息状態等を市民が継続的に調査し、保全する仕組みを構築すると共に、それらのネットワークを計画する。</p> <p>水辺のピオトープネットワークづくり 多摩川、その他の河川など川崎市域の水域及び水辺の植生及び昆虫、その他の生物の棲息状況等を市民が継続的に調査し、自然を再生し、保全する仕組みを構築すると共に、樹林地等のピオトープネットワークにつなげることを計画する。</p> <p>生物保護区づくり 川崎市域の湧水池を市民が継続的に調査し、ピオトープとして良好な状態で保全する仕組みを構築する。</p> <p>水の浄化を考える 多摩川河口の干潟等浄水機能を持つ地域の自然を、市民が継続的に調査し、保全する仕組みを構築する。</p>	<p>(川崎市全域にわたる自然、歴史、街路等について)</p> <p>調査の方法を検討し、事前調査で検証しながら、調査マニュアルを作成する。</p> <p>身近な地域を調査するボランティアを募集する。</p> <p>市民ボランティアに調査方法を説明し、専門家と一緒に事前調査を行う。</p> <p>市民ボランティアが調査する</p> <p>調査結果を分析或いは整理しデータベース化する。</p> <p>参加した市民ボランティアへの報告会(勉強会)を行う。</p> <p>(C)</p>

課 題	目 標	施 策
市民による自主的な、自然の継続的調査の実施を難しくしている状況がある。	まちづくりの計画に自然という軸を盛り込める様な仕組みをつくる。	市民による市全域にわたる自然の継続的調査研究及び自然を軸としたまちづくり計画などを支援する。 青少年科学館の再編など、自然に関する資料の収蔵保管場所や活動の拠点となる場所を市民に提供する。
歩行者ネットワークと関連づけられておらず、まちの魅力資源として活用されていない。	川崎にも歴史があり、文化があることを実感して暮らせる環境をつくる。	歴史文化の資源化 神社仏閣、史跡及び文化財、石碑、道祖神、地藏、道標、昔の道の痕跡など川崎市域の歴史を語るものを調査し、データベース化し、これらを資源として活用する仕組みを構築すること
安全に快適に歩いてどこへでも行ける環境がつかっていない。	自宅の周辺にも、自然や歴史を感じて、楽しく散策できる道があることを実感して暮らせる環境をつくる。	散歩道ネットワークづくり 快適に歩ける道、子どもが遊べる道、自然を感じられる道、街路樹のある歩道など、川崎市域の道路等を歩行者の立場から評価しデータベース化する。 既設の遊歩道の評価をし、課題を抽出する。 保存樹木、保存樹林、保存生垣、まちの樹、保安林などを市民の立場で評価し、データベース化する。 更に次のステップで、小・中学校、街区公園、図書館、市民館、レストランなどに拡大していく。

